



①昭和女子大学で行われた「せたがや災害ボランティアマッチングセンターコーディネーター養成講座」の様子 ②世田谷区の災害ボランティアは緑のベストとヘルメットを着用して活動します ③いざというときのために、日頃の防災訓練も大切です

内容は災害ボランティアに関する講義と、寸劇や模擬訓練形式で災害発生時の活動を疑似体験しながら、災害時のマッチングコーディネーターの役割を学習していきます

実際に災害が起きたときの役割は？

災害発生時、せたがや災害ボランティアセンターでは、ボランティアの支援を必要とする人と支援活

動を申し出るボランティアとをつなぐ活動の拠点として、区内の5カ所（日本体育大学、国士舘大学、昭和女子大学、日本女子体育大学、日本大学商学部）に「マッチングセンター」を開設。さらにその下に、「サテライト」と呼ぶ地域拠点を小・中学校などの避難所に、避難所運営本部とは別に設置します。

例えば

1カ所のマッチングセンターに1日1500人のボランティアが集まるとすると、マッチングコーディネーターの必要人数は？

■登録受け付けやサテライトへの送り出しなど……20～30人程度

■ボランティア活動中のトラブル対応などに……4～5人程度

■ボランティア登録者の活動結果報告などのデータ処理など……10人程度

(ここまでで、34～45人程度)
交代要員も必要なので、さらにたくさんの人員が必要になります

※「せたがや災害ボランティアセンター活動の手引き」から

次回

マッチングコーディネーター養成講座

日時：9月16日(土) 13:30～16:30

会場：国士舘大学 34号館B棟3階303

教室およびサンクンガーデン

(世田谷区世田谷4-28-1)

対象：世田谷区在住・在学・在勤者

参加費：無料 定員：80人

申し込み：下記せたがや災害ボランティアセンターへ

※養成講座は随時開催予定

各地から集まるボランティアは、まずは「マッチングセンター」を窓口として受け入れ。次に、各「サテライト」からの要請に応じて振り分けられます。この「マッチングセンター」や「サテライト」に、マッチングコーディネーターは配置され、大勢のボランティアの役割分担など各種の調整活動を担当することになるのです。ボランティアが多ければ、マッチングコーディネーターの数もおのずとたくさん必要になります(左囲み参照)。

防災意識を高め正しい知識を身につけておくことが、いざというときに力を発揮し、冷静に困難を乗り切るための構えになるのではな

取材を終えて…

おとな・り(re) 社会部の目

マッチングコーディネーターという名称から、なにか高度な技術が必要なものなのかと思いましたが、そうではなく、誰もが取り組みやすいボランティアだと分かりました。災害時にはたくさんのボランティアが必要とされます。多くの方がこのボランティアに登録してくださればと思いました。(青木)

問い合わせ

●社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
せたがや災害ボランティアセンター

☎ 5712 - 5101

(10:00～22:00 月曜休み)

メール

saigai@otagaisama.or.jp

Web サイト

http://www.saigai.otagaisama.or.jp/

興味を持ってみてはいかがですか。